

小學修身鑑補 卷三

館藏書會育教本日大			
一	九	一	九
冊	號	架	函

257
393

不認定等
K120.1
1
3

K120.1

1

3

吉田利行編輯

版權所有

小學修身鑑補

魁玉堂藏版

小學修身鑑補卷三

吉田利行編

第一 孝行

① 父母ノ心ヲ怡バシメ父母ノ身ヲ養フニツノ務メ闕クベカラズ 家道訓

伊勢ノ國鈴鹿山ノ萬吉ナ
ル者ハ幼ニシテ父ヲ喪ヒ母
ニ事ヘテ至孝ナリ年僅ニ六

① 人ハ貴高とみく賤

となく。父母の生うま

がる人うわある

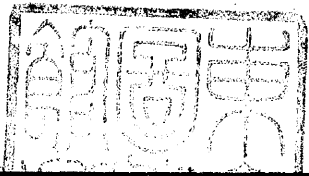
104851



小學修身鑑補卷三

吉田利行編

第一 孝行



① 父母ノ身ヲ養フニシテ父ヲ喪ヒ母ニ事ヘテ至孝ナリ年僅ニ六

ル者ハ切ニシテ父ヲ喪ヒ母ニ事ヘテ至孝ナリ年僅ニ六

ル者ハ切ニシテ父ヲ喪ヒ母ニ事ヘテ至孝ナリ年僅ニ六

伊勢ノ國鈴鹿山ノ萬吉ナ
ル者ハ切ニシテ父ヲ喪ヒ母
ニ事ヘテ至孝ナリ年僅ニ六

① 人ハ貴タツトキとかく賤セシキとなく、父母の生ま
がる人である

方吉金ヲ
律テ亡父
ノ位牌ヲ
辨スル話

小學修身鑑補

卷之三

吉田利行編

六 論 行 義 大 意

歳ナレバ常ニ街道ニ出デ、旅人ノ包物等ヲ負ヒ若干ノ錢ヲ得テ母ノ嗜好ノ物ヲ求メ之ヲ給セリ母曩ニ夫ヲ喪ヒシヨリ憂鬱病ヲ成シ時々發狂ス萬吉看護ニ心ヲ盡シ其傍ヲ離レズ人皆之ヲ感ジケル天明三年秋幕府ノ臣石川忠房トイフ人大阪城ヲ發シテ東ニ歸リケルガ水口驛ヨリ轎ヲ下リ僚友ト鈴鹿嶺ニ掛リケルニ六七歳ノ兒童身ニ垢衣ヲ着ケ紙條ニ數錢ヲ貫キテ携ヘ忠房等ヲ見テ路傍ニ避ク一人之ニ戯テ曰ク汝錫ヲ買ハントスルカ兒ノ曰ク否之ヲ母ニ贈ラントスルナリ其錢ハ何ニヨリテ得タルヤ兒ノ曰ク旅人ノ包物等ヲ持チ坂ヲ上下シテ得タリト忠房等之ヲ奇トシテ萬吉ヲ拉テ茶店ニ憩ヒシニ馬丁等ハ萬吉ヲ指ザシテ孝

子ナルヲ稱賛セリ忠房感ジテ其家ヲ訪ヒシニ只四壁ノミナリ母ハ顔色憔悴シテ忠房等ノ來ルニ驚キ拜伏セリ忠房曰ク吾等途中萬吉ノ孝行ヲ聞キ實ニ欽羨ニ堪ヘズ汝何ゾ貧窮ヲ憂ヘンヤ母年來ノ不幸薄命ヲ説ク忠房曰ク萬吉ノ至孝汝ノ貞操天何ゾ之ヲ捨ンヤ他日必幸福ヲ得ベシト銀子若干ヲ萬吉ニ與フ萬吉其銀ヲ戴キ先人ノ神位ニ奉ジ合掌シテ稽首スルコト良久シ衆益感歎セリ忠房後浪華へ更番スル毎ニ必萬吉母子ヲ存問セリ一日母忠房ニ謂テ曰ク母子大ヒニ君ノ恩惠ヲ得タリ消

② 生るゝと育はるゝ
 ると二つの恩あり
 其恩の深くして極

埃ノ報ヲナサント欲ス願ク
 ハ萬吉ヲ以テ君ノ僕トナシ
 妾ハ紡績シテ生活ヲ計ラン
 ト忠房曰ク我モ萬吉ヲ得ン
 ト欲スレドモ天ノ孝子ヲ生
 ズルハ偶然ニアラズ世ノ不肖ノ者ヲ論サシメンガ爲ナ
 リ今コレヲ携ヘ去ラバ恐クバ天ノ意ニ背カントテ之ヲ
 辭セリ忠房ノ同僚諸友此地ヲ過ルモノ必母子ヲ存問ス
 ルヨリ人往々之ヲ傳ヘテ此地ヲ過グル者ハ萬吉ヲ訪ハ
 ザルナキニ至レリ忠房ノ友人三橋成烈トイフ人萬吉ノ
 コトヲ記シテ冷泉爲泰卿ニ呈シケレバ爲泰卿和歌一首
 ヲ賜ハレリ成烈之ヲ扁額トナシテ其家ニ掲ゲシメタリ

まりかきことたと
 へを取るに物かし

初學訓

爲泰卿ノ子左衛門督爲章卿乙巳四月例幣使トシテ日光
 山ニ赴カレシ歸路萬吉ヲ訪ヒ錢若干ヲ賜ヘリ丁未三月
 道中奉行桑原伊豫守幕命ヲ傳ヘテ萬吉ヲ江戸ニ召シ白
 銀二拾挺ヲ賜ヒ母ニハ終身一人口ヲ賜フ萬吉時ニ年十
 二歳ナリト

③一タビ足ヲ擧グルニモ敢テ父母ヲ忘レズ一タビ言ヲ
 出ダスニモ敢テ父母ヲ忘レズ禮記

③周防國ノ孝女阿米六歳ニシテ母ヲ喪フ家素ヨリ貧困
 ナリ父米ヲ外舅ニ托シ傭作
 シテ自ラ給ス父後疾ニ罹リ
 米ヲ召ヒ還シテ其生理ヲ佐
 ク時ニ年甫メテ十二ナリ米

③父母ハ我家の神

己が神と

米女石ヲ
 腰ニ縛シ
 春ク詠

心はくして

以後け人の子

明倫歌集

日ニ鄰里ノ爲メニ春ク軀小ニ力微ニシテ其業ニ堪ヘズ是ニ於テ自ラ一方ヲ案シ石ヲ巴カ腰ニ縛シ其體カヲ重クシテ以テ春ク夜ハ則紡績シテ晨ニ達シ僅カニ父ヲ養フヲ得タリ父疾ムト久シク精神昏乱シテ屢水ニ投ゼントス米之ヲ防護シテ其側ヲ離レズ夏モ懈セズ冬モ爐セズ夜モ帶ヲ解カズ女工ノ得ル所ハ躬ニ一錢ヲ費サズシテ父ノ嗜ム所ノ物ハ必之ヲ供ス故ニ父ハ貧ニシテ且ツ病ムト雖エ怡々如タリ

③女子タル者夫ノ家ニ行キテハ專ラ舅姑ヲ我親ヨリモ猶重ンジテ厚ク愛シミ敬ヒ孝行ヲ盡スベシ 童子訓

イト女解
魚ノ答コ
リテハ
語

④人ノ子トシテ親ニ孝ヲ行フ道ハ親ノ命ニ背カズ親ノ生メル我兄弟ニ睦ヅリ又親ノ親メル親戚朋友親ノ愛スル下部マデ其程ニ隨ヒテ情深キヲ以テ孝トス 五常訓

④孝子ハ父ノ美ヲ揚ゲテ父ノ惡ヲ揚ゲズ 穀梁傳

④イトハ若狹ノ國三方郡早瀬浦佐右衛門ノ妻ナリ天性孝順ニシテ舅姑ニ事ヘ奉養備サニ至レリ既ニシテ姑歿スイト哀痛シテ已マズ是ヨリ舅ニ奉ズルト愈篤シ舅年八十餘已ニ耄シテ言行常ナクイトヲ遇スル亡狀ナリイト未ダ曾テ其意ニ忤ハズ一日イト外ヨリ歸ル舅業ヲ散シ孫兒ト其上ニ游戲ス云フ是婦人産蓐ノ狀ナリトイト

④父母の心は順ひ

て逆らひぞ

初學訓

モ亦同ク戯ル舅大ニ悦ブ又歲臘ニ方リテ茹羹ヲ需ムイ
ト之ヲ領シ邑ノ寺僧ニ請ヒ塩藏ノ茄子ヲ得テ羹ヲ作り
之ヲ薦ム又嘗テ鮮魚ヲ需ム時ニ北風海ヲ捲キ漁夫業ヲ
止ムル久シイト魚ヲ求メテ獲ズ百方術盡キ大ニ苦シ
ム門ヲ出テ徬徨遲回ス忽チ老鳶ノ一隻魚ヲ攫ミ來リテ
其前ニ墜スアリイト且驚キ且ツ喜ビ割烹シテ以テ之ヲ
供ス郷里以テ孝感ノ致ス所ト爲シ狀ヲ具シテ藩主ニ聞
ス藩主之ヲ嘉賞シ苞米若干ヲ賜ヒ且其田租ヲ免ジテ門
閤ニ旌表セラル

五周ノ関子騫ハ孔子ノ弟子ナリ早ク母ヲ喪フ父後妻ヲ
娶リシガ常ニ子騫ヲ嫉ミテ
冬ニ至レバ已レガ生ミタル

関子騫
母ヲ怨
ミザル
語

二子ニハ綿絮ノ衣ヲ着セ子
騫ニハ蘆花絮ノ衣ヲ與フ子
騫其寒ニ堪ヘザレモ怨
ムル色ナク專ラ孝順ヲ盡セ
リ或ル時父ノ爲メニ車ヲ御
シ覺エズ凍慄シケレバ父怪
ンテ之ヲ問フ子騫其實ヲ告
グルニ忍ビズ頗ル答語ニ苦
ミタリ父其狀ヲ疑ヒ衣ヲ啓テ之ヲ視テ始メテ其蘆花絮
ナルヲ覺リ大ニ怒リテ直々ニ後妻ヲ去ラントス子騫父
ヲ宥メテ曰ク一子ノ寒ハ忍ブベシ母若シ去ラバ兄弟三
人皆寒カラント父ノ怒リ稍ク霽ル後繼母モ亦其孝ニ感

五 父母之を愛む礼

バ喜んで忘れず

父母之を惡むも懼

れて怨むことなか

礼 禮記

ハ
五

ツ竟ニ之ヲ愛スル一實子ト同ジキニ至レリト云フ

⑥父母若シ病アラバ晝夜帶ヲ解カズ他事ヲ棄テ、看病

シ醫藥ノ事ニノミ心ヲ盡スベシ六論行義大意

⑥老人ハ體氣弱キユエ風寒暑濕ニ傷ラレ易シ其防ギヲ

嚴シクスベシ又行立坐卧ニ常ニ心ヲ着ケテ扶クベシ

初學訓

⑥安藝國高田郡桂村ノ農民貞右衛門ガ二子ニ傳藏ト云

フ者アリ天性至孝ニシテ六歳ノ頃ヨリ長者ヲ敬ヒ神佛

ヲ尊ヒ朝夕佛壇ヲ掃除シ香ヲ燒キ花ヲ供ヘ家内ノ人々

皆拜禮シ了ルヲ待チテ戸帳ヲ閉ヅルヲ日々ノ務メトセ

リ傳藏十歳ノ時其母重病ニ

罹リ殊ニ妊娠ナレバ其快復

⑥父母病ある時ハ

傳藏母ノ
掛處ヲ懸
レテ創ヲ
掩フ詔

測リ難シト醫師松菴ノ父ニ

語ルヲ聞キ傳藏心大ニ憂苦

シ飲食ハ禁忌ヲ一々醫師ニ

問ヒ自ラ調理シテ膳ヲ進メ

其食量常ヨリ減ズレバ深ク心ヲ痛メ又常ヨリ多ケレバ

悦ブ一限ナシ常ニ母ノ側ヲ離レズ肩ヲ撫デ脚ヲ摩リ夜

ハ勞レテ其儘眠リ伏ス一アリ或人一夜其狀ヲ憐ミ衣ヲ

以テ傳藏ガ伏セルヲ覆ヒシニ忽驚キ覺メテ終夜母ヲ看

護セリ傳藏一日松菴ニ向ヒ昨日賜リシ藥ハ從前ト處方

替レリヤト問フ是其門生ノ誤テ他藥ヲ與ヘシナレバ松

菴大ニ愧ヂテ其疎漏ヲ謝シ殊ニ幼兒ニシテ用意ノ至レ

ルヲ深ク感ジケリ又一日黄昏傳藏誤テ烟草ヲ刺ム刀ニ

必^{かみらす}一^{ハシベル}大^トく侍^トを^トべ

童子訓

テ其足ヲ傷ヒ流血淋漓タリ傳藏之ヲ悲ムテ深キヲ以テ其痛ミ甚ダシキヤト問フニ血出デ、止マザレバ今宵母ヲ介抱スル能ハザルヲ患フルノミ創ノ痛ミハ厭フ所ニアラズト言未ダ畢ラザルニ母ノ之ヲ呼ブヲ聞キ直チニ膝下ニ至リ母ノ掛慮センコトヲ恐レ創ヲ掩ヒテ看護スルコト平生ニ異ナラズ斯ノ如クスルコト時月ヲ歷テ母遂ニ分挽シ其病モ亦漸ク愈ユ此事藩主ニ達シ天明五年三月銀若干ヲ賞賜アリ傳藏時ニ十一歳ナリ

第二 勉學

① 田アレバ耕サレバ倉廩空シ書アレバ教ヘザレバ子孫愚ナリ 古文眞寶

鶴窩蛾眉ノ勉學ニ倣フ事

① 月形鶴窩ハ筑前福岡ノ人ナリ年甫メテ十二大和俗訓ヲ讀ミ人ト生レテ學バザレ

バ生レザルニ同シ學ビテ行ハザレバ學バザルニ等シト云ヘルヲ感ジテ學ニ志セリ其身羸弱多病ナレバ人或ハ其成立ヲ危フム其師ヲ真藤蛾眉ト云フ蛾眉通鑑綱目ヲ讀マント欲シテ近傍ニ其書ヲ得ズ乃チ太宰府神庫本ヲ借りテ之ヲ讀ムニ掌ル者一冊ヲ限り之ヲ借スヲ以テ蛾眉隔日ニ四里餘程ヲ往來シ途上モ亦之ヲ讀メリ鶴窩共

① 身みを立たてるハ學がくを
つとむるを以もて先まず
とす 五種遺規

師ノ勉強此ノ如クニシテ没スル年八十二ナルヲ見テ苦
學ノ生ヲ害セザルヲ信シ祁寒暑雨ニモ勉強シテ止マズ
或ハ病牀ニ在リト雖モ親ヲ湯藥ヲ煎シ傍ヲ手ニ卷ヲ釋
テズ學已ニ成リ藩學師ニ任シ昇リテ藩主ニ伴讀ス輔導
カヲ竭シ優待ヲ蒙ル没スル年八十六

(二) 劍ハ利ナリト雖モ礪ガザレバ斷ゼズ材ハ美ナリト雖
モ學ハザレバ高カラズ旨酒
佳有アリト雖モ嘗メザレバ
其旨キヲ知ラズ善道アリト
雖モ學バザレバ其功ヲ達セ
ズ 韓詩外傳

(三) 夫レ人ハ幼ニシテ之ヲ學

二 玉琢カザレバ器
を成さば人學バ
レバ道を知らば
禮記

ビ壯ニシテ之ヲ行ハンコトヲ欲ス 孟子

(三) 夫學問ハ實行スルガ爲メニ皆學ヲ爲ス所以ナリ未ダ
學テ行ハザル者アラズ如シ夫レ孝ヲ學ブト言フハ則必
勞ニ服シテ奉養ヲ盡シ躬ヲ孝道ヲ行フテ後之ヲ學ブト
ハ謂フベキナリ豈ニ徒ニ懸空口耳ニ講說シテ遂ニ以テ
之ヲ學ブト謂フベケンヤ 傳習錄

(三) 周ノ公明宣曾子ニ學ブ三
年書ヲ讀マズ曾子曰ク宣汝
參ノ門ニ居ル一三年學バザ
ルハ何ゾヤ公明宣曰ク安ン
ゾ敢テ學ハザラン宣夫子ノ
庭ニ居ルヲ見ルニ親在ス片

三 學で道を知らば
レバ學バさると同
おか

公明宣書
ヲ讀マズ
行ヲ學ブ

ハ叱咤ノ聲未嘗テ犬馬ニ至ラズ宣之ヲ説ビ學ヘ凡未ダ能クセズ宣夫子ノ賓客ニ接スルヲ見ルニ恭儉ニシテ情ヲ不宣之ヲ説ヒ學ヘ凡未ダ能セズ宣安ンゾ敢テ學バズシテ夫子ノ門ニ居ランヤ

③學ヲ為ス者ハ須ク先ヅ學テ何事ヲ為スト云フコトヲ會得スベシ然ラザレバ則終身拮据スト雖モ何ゾ已ニ益スルコトアラシク静寄軒語録

④子ヲ養フテ教ヘザルハ父ノ過ナリ學問ノ成ルナキハ子ノ罪ナリ 古文真室

長順子ノ學カヲ試スル語

④本多利長ノ侍医笠原長順ナル人ハ秩千石ヲ食セリ其ノ子順庵ヲ京師ニ遊學セシム發スルニ臨ミ學資金五兩ヲ與フ親族其少數ナルヲ見テ潛カニ若干金ヲ與フ順庵京師ニ在リカ學三年ニシテ父ヲ省ス長順謁ヲ許サズ先ヅ之ヲ試ントテ運氣論ノ疑義ヲ解セシメ障ヲ隔テ之ヲ聽キ輒チ曰ク汝醫學未ダ熟セズ何為ソ歸ルヤト乃チ金五兩ヲ與ヘ再ヒ京師ニ赴カシム順庵復カヲ極メテ勤學シ三年ニシテ歸ル長順之ヲ試ムルコト初ノ如シ順庵答

知て行ふと能はざれば知らざると同じ 慎思録

④父母教へて學ばざるハ是子其の身を愛せざるなり 學ぶと雖も勉めざ

辯四筵ヲ驚スニ至レリ長順
大ニ悦ビ障ヲ開テ曰ク汝真

るハ是亦その身を

ニ我兒ナリ汝今醫學成レリ
我汝ガ歸ルヲ待ツコト久シ

愛せざるなり 林宅

ト乃チ新裁ノ衣服ト金五百兩ヲ出シ之ヲ與ヘ順庵ヲ携
ヘ老臣某ノ家ニ詣リ曰ク臣老タリ幸ニ兒ノ學成レリ然
レ正醫ニシテ千石ヲ食ムハ多キニ過グ兒ニ五百石ヲ賜
ヘバ足レリト乃チ家ヲ順庵ニ讓リ致仕セリト

④人或ハ以テ食ハザル可キアルモ以テ學バザル可ラ
ズ食ハズシテ死スルハ死スルノミ學バズシテ生ケルバ
則禽獸ニ入ルナリ其禽獸ニ與ミセンヨリハ寧ロ死セヨ

儒門要語

劉峻夜學
シテ髮ヲ
燒ク事

⑤學ヲ爲シテ進マザルハ只
是勇ナラザレバナリ程子

⑤學問ハ山ヲ登る

⑤梁ノ劉峻家貧ニシテ學ヲ
好ム自カラ少時ニ於テ早ク

が如し。怠れば日々

悟ル能ハザリシヲ悔ヒ晩ニ
更ニ精ヲ勵マシタヨリ且ニ

に下る 静慎語録

達ス或ル時昏睡シテ其鬚髮ヲ燕ク覺ルニ及ビテ復讀ム
是ヲ以テ明慧人ニ過キ博ク群書ヲ極メ文藻秀デ出ヅ南
北學者與ニ匹タルナシ

⑤怠惰ハ乃チ衆人ノ通病ナリ精勤ハ是衆人ノ良藥ナリ
初學知要

⑥已ニ知ルモ未ダ知ラザルガ如ク已ニ能クスルモ未ダ

能セザルが如クスレバ則進ム 讀書録

⑥ 西諺ニ曰ク學ンデ練磨セザルハ學バズシテ練磨スルニ劣ル

雅信入一
已百ノ語
ヲ服膺ス
ル語

⑥ 源雅信ハ寛平帝ノ孫吏部王ノ子ナリ王孫ノ故ヲ以テ官ニ任ズ官政ヲ調治スルコト巧ニシテ老吏ト雖モ及バザル所アリ人其故ヲ問フ雅信答テ曰ク吾不才ニシテ宗籍ニ列ス人情世態ヲ諳知スルコト能ハズ何ヲ以テカ官政ヲ治メン故ニ閑散ノ時ヨリ必ズ人ニ先ダチテ入り人ニ後レテ退ク今ニ至テ怠ラズ習熟ヲ以テ務トナス是ヲ

⑥ 人一大びりて之を能く老れば已ハ之を百たび老
ひやく
中庸

以テ稱其一ニヲ知り得タリ九ノ人ノ事ニ於ル能ク忍耐シテ之ニ從フ片ハ必ズ通達ス忍耐スルコト能ハザレバ才アル者ト雖モ通達スルコト能ハズ傳ニ言ハズヤ人一タビシテ之ヲ能スレバ已之ヲ百タビシ人十タビシテ之ヲ能スレバ已之ヲ千タビスト吾不敏ト雖モ是言ヲ服膺シテ敢テ忘レズ人多ク吾ヲ以テ迂濶トナスモ吾ハ顧ミザルナリト

第三 速慮

① 九事ハ皆當ニ始メテ慎ミ終リテ慮ルニシ 薛文清

① 人速慮おけれむ
そんりよ
トホキ オモハカリ

一慮ハ深カルベシ浅カルベカラズ慮深ケレバ見ル速ク聞ク詳カニシテ見聞ニ迷ハズ慮浅ケレバ見ル聞クノ迷ヒ易ク入ニ欺カレテ身ノ禍ヲ招ク初學訓

必道憂あり

論語

二心ハ安静ナラン一ヲ欲シ躁ガシキヲ欲セズ慮ハ深遠ナラン一ヲ欲シ浅キヲ欲セズ鄧析子

二万の事後を慮り

てかねて早く其用意をすべし

陶侃齊外ニ運

三陶侃廣州ノ刺史トダリ州ニ在テ無事ナル片ハ輒子朝

意をすべし

ニ百甕ヲ齊外ニ運ビ暮ニ齋内ニ運ブ人其故ヲ問フ曰ク吾レ方サニカラ中原ニ致サントス優逸ニ過ギハ恐ラクハ事ニ堪ヘズト

此の如くすれば時に臨みて俄まゆきあたり困まば家道訓

二人情孰カ安キヲ喜ビ危キヲ惡マザラン順ヲ喜ビ逆ヲ惡マザラン安キ片危キヲ恐レザレバ則常ニ安シ順ナル片逆ヲ恐レザル片ハ則常ニ順ナリ吳懷孚

三患ハ忽セニスル所ヨリ生ジ禍ハ細微ニ發コル後漢書
三細事ト雖モ亦當ニ難キヲ以テ之ヲ慮ムベシ忽セニス

三言行ハよく始め

可ラズ況ンヤ大事ヲヤ録書

③真ニ大志アル者ハ克ク小

物ヲ勤ム真ニ遠慮アル者ハ

細物ヲ忽セニセズ言志録

④毫厘ノ差ハ千里ノ差トナ

ル故ニ君子ハ始テ慎ム賈誼新書

④其利スル所ヲ得レハ必其

害アル所ヲ慮リ其成ル所ヲ

樂メバ必其敗ル、所ヲ顧ミ

ル訖苑

⑤小川泰山少カクシテ業ヲ山本北山ニ受ケシヨリ烈風

泰山雪ヲ侵シ通學スル事

大雨ト雖モ未ダ嘗テ師家ノ闕ヲ踏マズンバアラズ曾テ

大ニ雪フル巨笠ヲ戴キ之ニ赴ク途未ダ半バニ至ラズ雪

積モリ笠重ク力之ニ勝ル能ハズ顛蹶シテ大ニ膝ヲ傷ツ

ク人惑テ之ヲ扶ケ勸メテ家ニ歸ラシムレモ肯ゼズ遂ニ

師ノ許ニ至リ痛ヲ忍ビ業ヲ受ル、常ノ如シ比鄰傳ヘテ

美談トス

⑤富貴ノ地ニ處テハ貧賤ノ

痛癢ヲ知ラン、一ヲ要シ少壯

ノ日ニ當リテハ須ク衰老ノ

辛酸ヲ念フベシ安樂ノ場ニ

居テハ當ニ患難人ノ景況ヲ

體スベシ傍觀ノ地ニ處リテ

ハ局内人ノ苦心ヲ知ラン、

に慎めば終りそはは悔くゆ

るとおし初學知要

④始め快きことハ

終りそはは必禍とあるおそろひ

初學訓

⑤少わかき時ときは勤きん苦くせ

されれを老おきないて必かな艱かん

辛しんすマ

少ときき時らうは勞ふくを服はれハマル

ヲ要ス 昨非庵日集

⑥人ノ戒メハ防ノ如シ大水

ヲ防ガンタメ預子テ早魑ノ

時ニ防ヲ築キ置ケバ洪水ノ

禍ナシ人亦預子テノ防ナケ

レバ憂ノ來ル測リ難シ

家道訓

⑥松下禪尼ハ秋田城介景盛

ノ女ニシテ北條時頼ノ母ナリ嘗テ時頼ノ爲メニ食ヲ設

ク禪尼ノ兄義景來テ經營ス尼方ニ手ヅカラ紙ヲ裁シテ

障子ヲ糊補ス義景之ヲ見テ曰ク其等ノ事ハ自ラセズト

モ人ニ命ジテ可ナリ且之ヲ補フハ之ヲ新タニスルノ勞

ヲ省クニ若カズト尼嘆ジテ曰ク我レ豈ニ之ヲ知ラザラ

ンヤ凡ソ物小損アル早ク之ヲ補ヘバ則チ大壞ニ至ラズ

シテ止ム今此小損改メテ之ヲ新タニスルハ奢侈ヲ以テ

少年ニ示スナリト義景赧然タリ

⑦失意ノ人ニ對シテハ得意

ノ事ヲ談セズ得意ノ日ニ處

リテハ失意ノ時ヲ忘ル、コ

トナカレ 願體集

⑦名ヲ成スハ毎ニ窮苦ノ日

ニ在リ事ヲ敗ルハ多ク得意

ノ時ニ在リ 神琦

⑦小乳水ヲ洩シテ大船ヲ沈

ば老いて必安逸か

り 省心雜言

⑥備へあれを患ひ

かし 書經

⑦前車の覆るは後

車の戒なり

前事の忘れざるは

後事の師あり 古諺

禪尼キヲ
障子ヲ糊
補スル語

西語

⑦病後ニ能ク藥ヲ服センヨリハ病前ニ能ク自ラ防グニ如カズ 郎子

第四作法

①人ノ書籍ヲ借ラバ大切ニ取扱ヒ若シ前カドヨリ損シタル所ナドアラバ繕ヒ補フヤウニ心掛クベシ 大和小學

①書を汚すと勿れ。書を讀み終らばもとの如く覆ひ收む

ヲ越ユベカラズ書ヲ批トスルヲ勿レ 童子訓

べし 童子訓

②書ヲ讀マバ几案ヲ整頓シ書籍ヲ整齊シ身體ヲ正クシ詳緩ニ字ヲ看テ子細分明ニ之ヲ讀メ 童蒙須知

②窓壁几案文字の間は八字を書くべからむ 童蒙須知

③書ヲ讀ムニハ宜ク澄心端坐シテ寛ク意思ヲ着ク可シ 言志録

③人たる者ハマづ

④九字ヲ書クニ一筆一畫平正分明ニシ 鹿忽ニ書クベカラズ 童子訓

④身體の端整からん

二三 几ニ書シ研ニ書シ自ヲ其面ニ黥スルハ此最雅潔ナラ

ことを要す 童蒙須知

ズトス切ニ深ク戒ムベシ童蒙須知

三 身體ハ寛慢ニスベカラズ寛慢ナレバ則身體放肆ニシテ端嚴ナラズ人ノ為メニ輕賤セラル 童蒙須知

三 容貌ハ必莊カニシ居處ハ必恭クシ歩立ハ必正クスベシ 程董學則

茅容樹下ニ危坐スル事

四 漢ノ茅容野ニ耕シ等輩ト雨ヲ樹下ニ避ク衆皆夷踞シテ相對ス容獨リ危坐シテ愈恭シ郭林宗見テ之ヲ異トシ遂ニ與ニ言ヒ請テ其家ニ宿ス因テ容ヲ勸テ學バシム卒

四 勞をるも祖ぐるか ホ子ヲリ
かれ暑くも裳をか オチツ
カシメノ

ニ以テ徳ヲ成セリ

四 群小兒狂奔スルモ我ハ規矩ヲ守レ群小兒喧噪スルモ我ハ黙シテ語ラザレ 童子習

ぐるかかれ 禮記

四 喧鬪争鬪ノ處ニハ近ヅク可カラズ無益ノ事ハ爲ス可カラズ 童蒙須知

五 席につき飲食す セキ

五 九飲食ノ物ハ多少美惡ヲ争ヒ較フルナカレ 同上

るには必長者に後 カカハチチウトヤ
メウヘノモノ

五 北魏ノ楊椿兄弟相事フル

る 禮記

五 北魏ノ楊椿兄弟相事フル一父子ノ如キアリ椿坐ヲ命ゼザレバ弟津敢テ坐セズ椿近ク出デ、日斜ナルモ歸ラザル一アレバ津先ヅ飯セズ椿歸テ然ル後ニ共ニ食ス食

楊津兄弟ニ死クテ坐食セザル

スレバ津親ヲ匙箸ヲ進ム椿
 食ヲ命ジテ然ル後食ス椿嘗
 テ肆州ニ官タリ椿ハ京ノ宅
 ニ在リ四時ノ嘉味アル毎ニ
 使ノ次デニ因テ之ヲ贈ル若
 シ未ダ寄セザルトアレバ津
 先ヅ口ニ入レズ

⑥我身ヲ卑下シテ人ニ高ブ
 ラザルハ誠ニ善シ然レ氏餘
 リ卑屈ニシテ謙リ過ゴシ就
 クベキ座敷ニモ輒スク就カ
 ズ道ヲ行クニ我先キヘ行ク

ベキ位ナルニモ辭シテ行カ
 ズ人ノ言葉ヲ多ク貴サシム
 ルハ却テ無禮ナリ然レハ卑
 下スルニモ過不及ナカルベ
 シ大和俗訓

⑥物ヲ人ニ渡ス時先キノ人
 立テ居ルニハ我モ立テ渡シ
 先キノ人坐シテ居ルニハ我
 モ跪テ渡スナリ大和小學

⑦終身路ヲ讓ルモ百歩ヲ枉

ゲズ終身畔ヲ讓ルモ一段ヲ失ハズ類體集

⑧徐カニ行テ長者ニ後ルハ之ヲ弟ト謂フ疾ク行テ長者

⑥坐ガむるときは必スハル

下ノ坐ガし行くときスハル

は必アト後スハルより行くべ

⑥ 諭 行 義 大 意

⑦ 徑けいろ路ろせむき處ところを

過するときは一いつ歩ぽを

讓ゆづりて先まづ人ひとを通とほす

べし 願體集

⑧人ひとよは讓ゆづるも人

ををして我われよ讓ゆづらる

むると勿なれ 揚椒山 遺属

ニ先ダツ之ヲ不弟ト謂フ 孟子

第五 崇師

一父母之ヲ生メテ教誨ノ益ハ師範ニ在リ 童子習

一明ノ方孝孺宋濂ノ門ニ在リテ高弟子タリ濂後蜀ニ賤セララル私居ノ時其師ノ一ニ念ヒ及ビ或ハ其手跡ヲ見或ハ談師ノ事ニ及ブ毎ニ輒チ涕泣ス既ニシテ漢中ニ官タリ濂ノ家存スル一能ハズ蜀王ニ言ヒ厚ク之ヲ撫卹ス墓

方孝孺
宋濂
ヲ追悼ス
ル語

一父あら非あらざれば生うまれど教をふ非あらざれば知ららず 晋語

夔ニ在リ孝孺ノ舟夔ニ次ドル毎ニ必往キテ墓下ニ祭り慟哭時ヲ移シテ去ル

與兵衛師
ノ跡ヲ保
助スル語

一與兵衛ハ岩代國會津天寧寺町ノ漆工ナリ少カキ時又右衛門ト云フ者ヲ師トシテ其業ヲ傳習セリ又右衛門年七十ヲ過ギ妻ヲ喪ヒ男子一人アリ然モ多病ニシテ恒産ナク屢飢餓ニ瀕セントス與兵衛モ家貧ニシテ餘裕アルニ非ザレモ其師ノ貧苦ヲ見ルニ忍ビズ百ノ經畫シテ其

二我人わがひとと成らんと欲ほつするも師しは非あらざれば孰たれか教をへん 是こゝを以もつて愛敬あいけいの禮れいハ父母ふぼと道みちを同おなく

家ノ傍ラニ一室ヲ設ケ之ニ住マシメ晨昏定省子ノ父母

をべし 童子習

ニ事フルガ如シ日々飲食ヲ薦ムルニモ自ラ陪侍シ師食シ畢ハラザレバ妻孥ニ至ルマデ先ヅ飯セズ家計極メテ窮乏ナル片モ師ヲシテ其狀ヲ知ラシメズ若シ贏利ヲ得ルヲアレバ珍美ヲ求メテ之ヲ供ス師ノ父母ノ祭祀ハ言ヲ待タズ其忌日ニモ必潔齋シ凡ソ内外ノ務メ一モ師ノ意ニ違背スルヲナシ是ヲ以テ又右衛門ハ妻子ト共ニ其家ニ在リシ時ニ比スレバ意態却テ怡々タル者ノ如シ之ヲ見聞ク人皆與兵衛ガ師ノ恩ニ報ユルノ厚キヲ感ゼザル者ナシ元文元年米若干ヲ賜リテ其善行ヲ賞譽アリシト云フ

魏昭師ノ為メニ粥ヲ煮ル語

三漢ノ魏昭其師郭泰ニ事ヘテ太ダ慎メリ泰病ム片昭ニ命ジテ粥ヲ作ラシム昭粥ヲ煮熟スルニ及テ之ヲ進ムルヲ見テ泰呵シテ曰ク長者ノ為メニ粥ヲ煮ルニ敬ヲ加ヘザルハ如何ニト杯ヲ擲テ食ハズ昭更ニ煮テ進ムルニ泰呵スルヲ初ノ如シ此ノ如クスルヲ三度ニ及ベテ昭益慎ミテ怨メル色ナシ泰此ニ至テ喜テ曰ク吾初メ汝ノ面ヲ

三師の言を聴受し

信從して失ふと勿

れ

未解せざるにあ

を必問へ疑ふとあ

らむ必質せ 童子習

知ルノミナリシガ今始メテ
汝ノ心ヲ知レリト是ヨリ昭
ヲ遇スルヲ甚篤カリシトツ

③目ニ書ヲ看レバ則一意書
ニ在テ他所ヲ側視ス可ラズ耳ニ父母ノ訓戒先生ノ講論

ヲ聽カバ則一意ニ承受シ他言ヲ雜聽スベカラズ童子禮

③學ハ疑ヲ知ルヲ貴ブ少シク疑ヘバ少シク進ミ大ニ疑
ヘバ大ニ進ム疑ナル者ハ覺悟ノ機ナリ一番覺悟セバ一
番長進ス 劉氏人譜

④先生教ヲ施ス片ハ弟子是則トリ温恭ニシテ自ラ虚ク
シ受クル所是極メヨ 管子

④西諺に曰よき分
別ハ老人ノ問ヘ

第六勤儉

①夫レ人勤ムレバ則百事成
リテ百福生ズ惰レバ則百事
廢タレテ百禍至ル 初學知要

①坂野重右衛門ハ羽後國置
賜郡長橋村ノ人ナリ天保九
年同村ノ八郎右衛門ノ所有
セル不毛ノ瘠地ヲ買取りテ
農民トナレリ重右衛門稼穡
ノ道ニ深クカヲ竭シテ耕耨
シ遂ニ以テ平坦ナル田トナシ常ニ馬糞敗鞋等ヲ拾ヒ集

①人生ハ勤むるよ
在り 初學知要

②勤むれを貧から
ぢ慎めを禍かし 初學訓

メテ田中ニ入レ其ノ他種々肥料ヲ工夫シテ之ヲ耕シケ
レバ終ニ膏腴ノ地トナリ稻穀能ク熟スルニ至リ貢租モ
人ニ先チテ之ヲ上ツリ近鄰ニ期ニ後レタルモノアレバ
之ガ勞ヲ助ケテ貢租ヲ納メシメ又貧窶ニシテ生計ノ立
チ難キモノニハ百般之ガ爲メニ盡カシ或ハ之ニ錢米ヲ
與フルナド懇篤ノ舉動枚擧ニ暇アラズ而シテ重右衛門
彼ノ田地ノ外別ニ餘財アルニハアラズシテ夫婦及七十
餘ノ老母十四歳以下ノモノ五人老少合セテハ口貧困ノ
生活ナレドモ仁恕ノ心深クシテ常ニ人ヲ愛恤セリ數年
ヲ經テ嘉永六年ニ至リ百姓長トナリ安政六年ニ肝煎役
ニ轉ジテヨリ租賦ヲ皆濟セシ者ヲバ賞譽ヲ請ヒ遊惰ナ
ルモノニハ教諭ヲ加ヘケレバ一村皆重右衛門ニ化セラ

レテ農業ヲ励ミ寒窶ノ村落ナルモ年一年ニ稍豐裕ノ景
況ニ進ミタリ又一村薪草ノ料所ニトテ野山ヲ代價六百
五拾圓ニテ買求メ村中永久ノ預備ト爲セリ

②勤ムレバ貧ニ勝チ慎ムバ禍ニ勝ツ 家道訓

③勞苦ヲ樂ミ本業ヲ營メバ其後衣食必餘アリ口腹ヲ縱
ニシ逸樂ヲ事トスレバ其後衣食必貧窘ス天ニ非ザルナ

リ人ニ非ザルナリ自ラ之ヲ
取ルナリ 畜德錄

③板倉重矩性奢侈ヲ喜バズ
初メ其室ニ扁シテ咬菜ト曰

フ後ニ老中ト爲ルモ常ニ其
扁額ヲ以テ自ラ隨フ人ソノ

③まづ負ものきもの者もののもの勤つとめよもの
りて富とむもの賤ひくいきもの者ものも

勤つとめよもの因よりて貴たかしもの
齊家寶要

重矩咬菜ノ匾額ヲ掲グルル事

故ヲ問フ重矩曰ク凡ソ人貴
 顯ニ至レバ必布衣ノ時ヲ忘
 ル故ニ奢侈ニ至ル予不才ヲ
 以テ執政ノ位ニ備ル君ノ祿
 賜自己ノ分ニ過タルヲ念
 フ故ニ朝夕舊額ヲ視テ以テ

④人情おごりて侈おごれを貧まづ
 一カめて儉けんをまば
 富とむツマシ管子

自ラ警ム庶幾クハ奢侈ノ心ヲ生ゼザランコトヲト
 ③人各我ニ當リタル職分ヲ務メバ自ラ我ニ當リタル衣
 食アリテ一生安穩ニシテ暮ラスベシ 六論行義大意
 ⑤富足ハ儉約ニ生ジ貧困ハ奢侈ヨリ起コル 初學知要
 ⑤勤ノ反ヲ惰トス儉ノ反ヲ奢トス酒能ク人ヲシテ情ヲ
 生ゼシメ又人ヲシテ奢ヲ長ゼシム勤儉以テ家ヲ興スベ

小作農家
 農ノ田地
 ヲ購フ物

ケレバ則情奢以テ家ヲ亡ボ
 スニ足ル蓋酒之ガ嫌ヲ爲ス
 ナリ 言志錄

⑤一豪農アリ一年ノ收納金
 千兩ノ田地ヲ有スレモ性懦
 弱ニシテ逸樂ニ耽リ勞作ニ
 怠リ竟ニ莫大ノ債ヲ負ヒケ
 レバ其地ノ半分ヲ賣リテ之

⑤西さい諺げんに曰いは勞らうかけ
 れバ得とるものかし。
 又曰勞せずして得
 るものハ唯ただ貧ひんのみ

ヲ償ヒ残ル半分ヲ二十一年ヲ限り他人ニ貸シ地代ヲ以
 テ貧シキ活計ヲ營ナミシガ期限満ントスル時借り主地
 主ノ家ニ來リ彼地ヲ我ニ賣與ヘヨト談シケレバ主人異
 ンテ云ク我曩ニ有シタル地ハ今汝が耕ス地ニ倍シ且地

代ヲ出スナシ然ルニ日々月々ニ貧ニ迫リ終ニ半地ヲ賣ルニ至レリ今汝ハ是ニ反シテ我地ヲ買ント云フ如是大差アルハ何ゾヤ答テ云ク汝ハ彼財ノ往來ノ説ヲ聞カズヤ汝ハ室内ニ安居シテ飲食ヲ貪リ衣服ニ奢リ勞役ヲ人ニ讓ル是レ財ヲ往カシムルナリ我ハ夙ニ起キ夜ハニ寢子勞役ヲ嫌ハズ是レ財ヲ來ラシムルナリ汝ガ往カシムルモノ我ニ來ル是得失相反スル所以ナリ

ヒフヲヨ
早起ヲ買
ヒ冷水ヲ
被アル語

六^レヒフヲンハ佛蘭西ノ人ニシテ產物學ノ大家ナリ平生ノ言ニ英才ハ忍耐ナリト謂ヒテ極メテ勉強スル人ナリ富家ニ生レシカドモ歡樂ノ事ハ爲サスシテ專ラ學問ヲ好ミ徳性ヲ養ヘリ此人天性英敏ト云ニハ非ザレモ後ニハ高名ヲ顯シケリ嘗テ晏起ノ癖アルヲ憂ヘテ之ヲ矯メ

ント欲シ自ラ勗メタレモ其定メシ時刻ニ起ルヲ能ハズ依テ僕^レジヨセフニ命ジテ六時前ニ起シ得タランニハ其度毎ニ一ノ銀錢ヲ與ヘント約セリ是ヨリジヨセフハ毎曉務メテ喚ビ起シケレモ夢心地ニ或ハ病アリト云ヒ或ハ怒ヲ發スサレドモ自ラ覺ルニ及デハ^レジヨセフヲ呼デ何故ニ久シク眠ラシメタルヤト呵リケリ一朝^レジヨセフ強テ之ヲ起サントセシカドモ^レヒフヲンハ常ニモ増シテ覺メ難タケレバ冷水ヲ盤ニ盛リテ^レヒフヲンノ寢衣下ニ

六^レ朝早く起る人家の榮ゆる兆かり晏起るを家の衰ふる基かり 大和俗訓

押入レケレバ驚キ覺メタリ此後斯ノ如クニシテ夕ビク起シケレバ遂ニ晏起ノ癖ハ止ミタリ後ビフヲ「常ニ曰ク我物産書ノ中其三冊ハ」ヨセフ「ノカニヨリテ成レリト

⑥其家儉ナレバ則福慶子孫ニ流ル奢レバ則凶禍後嗣ニ傳フ慎マザル可ケンヤ童子習

⑥人ヲ待ツハ豊カナルヲ要ス自ラ奉ズルハ約マヤカナルヲ要ス 呂新吾續小兒語

⑥儉約ヲ行フニ托シテ財ヲ惜ミ禮義ヲ缺キ仁愛ヲ施サザルハ吝嗇ナリ不徳ナリ 家道訓

小學修身鑑補卷三終

廿紙教改

明治二十年二月八日版權免許

同 年六月 日刻成

福岡縣士族

定價金八錢

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町十一番地

